本資料は、2014年２月11日に開催された第３回「被災者支援会議」で配布されたものです。

２０１３年支援活動の記録②

３１１　有志　　齋　藤

≪活動早見目次≫

Ⅱ　６月　石巻市民交響楽団支援

≪東日本大震災復興祈念事業「カンタータ大いなる故郷　石巻」≫

①事前準備

３月２２日（金）――――――――――――――――――――――――Ｐ１９

３月29日（金）４月２１日（日）★外食レストラン、そしてホテル★　４月２３日（火）

★楽譜コピー（ヴィオリスト中山宅）★　――――――――――――――――Ｐ２０

②合唱練習

５月４日（土）　５月１７日（金）５月２７日（月）――――――――――――Ｐ２１

③弦楽器練習

５月１２日（日）

④本番直前―ＧＰ（ｹﾞﾈﾌﾟﾛ）まで　６月１６日（日）――――――――――Ｐ２２

６月２０日（木）　６月２１日（金）６月２２日（土）――――――――――Ｐ２３

⑤コンサート本番　２３日（日）

第Ⅰ部「交響楽」――――――――――――――――――――――――――Ｐ２４

第Ⅱ部「カンタータ　大いなる故郷　石巻」――――――――――――――Ｐ２５

★9月　２０１２，１３年「石巻コンサート」ＤＶＤ上映会★

１６日（月ー敬老の日）

第Ⅰ部　１時３０分～　１２年３月「東日本大震災犠牲者追悼特別演奏会」ＤＶＤ上映。

第Ⅱ部　３時～　１３年６月石巻市「カンタータ　大いなる故郷　石巻」ＤＶＤ上映ーＰ２６

Ⅲ　被災地体感＆コンサートツアー

―石巻「ファイン・デュオ」支援コンサート鑑賞ー

１０月１９日（土）――――――――――――――――――――――――Ｐ２７

２０日（日）――――――――――――――――――――――――――Ｐ２８

★石巻市立大川小　南三陸町★――――――――――――――――――Ｐ２９

エピソード①「遅刻」②やっぱり「ファイン・デュオ」③女川の赤ちゃん

Ⅳ　７月　福島チェロキャラバン――――――――――――――――――Ｐ３０

６日（土）。★第１回福島市「笹谷東部仮設住宅」コンサート　夕食★――――Ｐ３１

★第２回福島市「古関裕而記念館ホール」コンサート★

【終了後のエピソード】★交流会★

７日（日）　★第３回「しいな脳外科クリニック」コンサート★――――――Ｐ３２

★第４回南相馬市「寺内権現沢仮設住宅」コンサート★

★第５回南相馬市「牛河内第一仮設住宅集会所」コンサート★――――――Ｐ３３

★第６回相馬市「大野台サポートセンター」コンサート★――――――Ｐ３４
①古関裕而は偉大だった　②２年ぶりの再会　③ともかく暑かった　――――――Ｐ３５
④地元、福島の女性参加者大活躍⑤９月「第２回福島キャラバン」には参加出来ず
９月７日（土）「第２回福島キャラバン」見送り！――――――――――――――Ｐ３６
Ⅴ　　７月　石巻「マンドリン」コンサート
★「信州松代マンドリン合奏団」石巻コンサート★――――――――――――――Ｐ３７
Ⅵ　３月　「和光３．１１　忘れないコンサート」
①2013 年イベント
２月 13 日（水）3月1日（金）――――――――――――――――――――――Ｐ３８
3月5日（火）９日（土）～１１日（月）本番
「その日を私たちは忘れない　元気にみんなつながろう　ｉｎ　和光　チャリティコンサート」。会場の和光市民文化センター「サンアゼリア」――――――――――Ｐ３９
3月２１日（木）――――――――――――――――――――――――――――Ｐ４０
②2014 年3月イベント準備
５月１７日（金）２１日（火）２２日（水）２７日（月）６月５日（水）
６月６日（水）ミュージカル★～東北のプレタポルテ～「ドリーム工場」★――――Ｐ４１
６月１２日（水）２６日（水）7月3日（水）１８日（木）――――――――――Ｐ４２

Ⅱ　６月　石巻市民交響楽団支援

≪東日本大震災復興祈念事業「カンタータ大いなる故郷　石巻」≫

第Ⅰ部　小杉太一郎作曲「交響楽」（１９５３年作曲　本邦初演）
第Ⅱ部　小杉太一郎作曲「カンタータ　大いなる故郷　石巻」
指揮：佐藤寿一　ソプラノ：菅英三子　バリトン：成田博之　朗読：茅根利安
管弦楽：石巻市民交響楽団
合唱：「大いなる故郷　石巻」を歌う会
舞踊：「大いなる故郷　石巻」を踊る会

会場―石巻市総合体育館
１４時開演　入場料Ａ席２０００円　　Ｂ席１５００円

①事前準備

３月２２日（金）

弦楽器指導をお願いしていたヴァイオリニスト沼田園子さんと昼に電話で５月１２日(日)夕方、熱海から上京頂くことをお約束頂き、千葉、神奈川、茨城など広範囲が予想される参加者の利便性から都内の練習場所を、有楽町線「護国寺」駅近くの「アカデミー音羽」に確保。

３月29日（金）

午後から、我が家で「6 月石巻カンタータ」合唱の事前打ち合わせ。1973 年、コバケンの指揮でのＣＤを聴きながら、ロづさんで、リズム数えながら、譜面を追ってゆく。オケの入り方が分からず、また、色んな疑問、があるものの、いけそう。５月４日に和光市で合同練習を決める。

４月２１日（日）

先に報告した「二本松市仮設訪問」（Ｐ６）で触れたように、石巻グランドホテルを訪問、３０人の宿泊予約。人数確定し次第、連絡約す。

６時。石巻中央公民館へ。合唱団指導者との打ち合わせ。これまでの「手書き譜」が見づらいので、こちらで作成したパソコン譜を差し上げ、喜ばれる。合唱は、練習では１２０名前後。男声は２０名、という。首都圏からは現在１１名、検討中数名、というと、「大変有難い」。その後、「石巻市民交響楽団」の練習見学。欠席もいるが、第２ヴァイオリン、ヴィオラ各１人、チェロ４人、と弦が寂しい。首都圏からは現時点で弦１０名。感謝される。９時終了。

★外食レストラン、そしてホテル★

９時半から外食レストランで、遅い夕食がてら、団長、副団長と６月コンサートなど打ち合わせ。し、石巻グランドホテルのツインで２人酒。１２時だ。

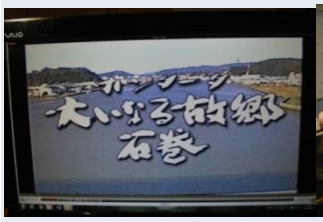
４月２３日（火）

★楽譜コピー（ヴィオリスト中山宅）★

石巻から戻って、２日後。１時半、中高の親友、東大⇒芸大⇒都響の異色ヴィオラニスト「中山良夫」さんの下高井戸のご自宅で、６月２３日石巻コンサート「カンタータ」と「交響楽」の弦楽器（１Ｖn、２Ｖn、Ｖa、Ｖｃ，Ｃｂ）パート譜、の参加見込み人数分コピー。「当日は参加できないので、紙代、インキ代、手間、をカンパする。自宅のコピー機で一緒にやろう。」との申し出だ。お金も、手間も、有難い。結局、作業は４時間かかった。しかし、最後は、黒以外のインキが無くなり、作業の一部は、中山さんが一人コツコツやり、郵送頂くこととなった。今月中に、参加者を確定し、５月４日合唱、５月１２日弦楽器の集合練習の案内とともに、それぞれに楽譜を送付する。

②合唱練習

５月４日（土）



和光市駅の線路沿い１時１５分待ち合わせ。車で１０分足らずの和光市民合唱団前代表宅へ。全部で１０人。欠席は３人。互いに初対面も多く、自己紹介で２時からようやく第１楽章スタート。大学院生「佐藤」さんの指揮指導はわかりやすく、好評。なんと明後日入籍、結婚、というピアノ伴奏者「坂本（新姓）」さんとても、全くの無償。有難い。午後３時、１０分だけの休憩。第午後６時すぎ。ようやく第３楽章も終わる。とは言え、まだ、半分。第２，第４楽章は、次回となった。終わってから、自宅で食事のない４人で、「外食」と店を変えてのコーヒー２時間半。そこで、ご自分が小学５年生まで石巻市の牡鹿半島で育ち、親戚も点在する、という「石森」さんから、１０世帯ほどの集落の出来事など色々な話が聴けた。そういえば、指導の佐藤さんも、祖父母、親戚が福島県相馬市に点在、一部の親戚は家が流された、と。練習中、相馬や石巻の方言が飛び交い、大笑いになった。

５月１７日（金）

夜は、和光市で、「６月石巻コンサート」の合唱練習第２回目。前回出来なかった第２，４楽章。６時から８時半までの２時間半で、一応通す。本当に「石巻」への愛着がひしひし感じられる歌詞が続き、第４楽章、最後の盛り上がり、ff で「大いなる石巻を讃えよ～！！」で、感動！！本番、また泣きそう。ただ、まだ不安があり、参加者や合唱指導から、「もう一度、練習しないと。」「はい、では、また調整して案内します。」と私。終わってから、残ったメンバーと、外食レストランで２時間。１１時半だった。お疲れさん。

５月２７日（月）

北朝霞駅経由浦和駅の「パルコ」１０階音楽室。石巻カンタータ、の「浦和の合唱団メンバー」だけの自主練習、ＣＤに合わせ、歌う。だいぶ、慣れては来た。８時半すぎに終了。

③弦楽器練習

５月１２日（日）

６月２３日石巻コンサートの合同練習。会場は、護国寺。モダンなガラス張りの「公民館」。でもホールは先約があり、狭い隣の部屋。

第Ⅰ部、１時半～５時半までの、「任意練習」。「交響楽」終え、休憩は１０分のみ。「カンタータ」も第４楽章までやりきる。石巻での練習に２度参加したヴィオラさんの録音とメモで、指揮者の細かな指摘事項やリズムなどを確認。そして、合奏。

第Ⅱ部は、５時半から８時前まで。個人レッスンを終え、熱海から新幹線で駆けつけてくれた、トップヴァイオリニスト「沼田園子さん」の指揮、指導開始。昨年３月、石巻コンサートへ無償参加頂いた。ちょうど、仕事などで遅れてきた３人も参加。第１ヴァイオリン３人（欠席１）第２ヴァイオリン４人（欠席１）、ヴィオラ２人（欠席１）、チェロ１人、コントラバス１人（欠席１）の計１１人（欠席４）勢揃い。昨年３月石巻「追悼演奏会」参加者は６人。あとは今回初参加。なので、互いに初対面。今度は「カンタータ」１時間半。３分休憩。「交響楽」２時間弱。

第Ⅲ部。「反省会」。用事のある参加者除き、７名参加。沼田さん、１０時半の護国寺駅発が最終、それまでなら、とお付き合い。本題「次回練習の可否」は、「交響楽」でもっともボリュームのある第３楽章が不安だが、今後の都内での集合練習無し、本番まで自学自習、の結論に。まあ、この６時間練習で、それぞれに手応えを感じた、

④本番直前―ＧＰ（ｹﾞﾈﾌﾟﾛ）まで

６月１６日（日）

山元町、石巻と一緒だった「合唱伴奏」チームは、現地解散。帰宅組と、オケ練習組に別れる。石巻中央公民館へ。夜５時。オケの自主練習。６時、本番指揮者での、練習開始。まず、

「交響楽」。第１楽章。やばい。自主練習で書き写していたボーイングといくつか違う。それに、まだ、何箇所もリズムが複雑で、間違える。第２楽章、ヴィオラの旋律で、繰り返しの指導。Ｐ２２

第３楽章、もっと刻みの練習必要、と実感。まだ、何箇所もリズムが複雑で、間違える。第２楽章、ヴィオラの旋律で、繰り返しの指導。第３楽章、もっと刻みの練習必要、と実感。

７時。「カンタータ　大いなる故郷石巻」。いかにも「日舞の師匠クラス」ゴロゴロ。子どもたちもぞろぞろ入場。中央公民館の舞台、床、２階観客席もほぼ埋まる。今度は、合唱のバスパートに加わる。まあ、歌えた。そして、舞台の踊りも良く見え、楽しめた。

６月２０日（木）

「旅のしおり」作り始める。一週間遅い。明日早朝完成させ、メールで、再度、注意事項とともに送り、２２日バスの中で配布する。石巻とは？女川とは？月の浦とは？ミニ知識でも、知らないよりまし。単なる「演奏会」ではない。復興祈念、への参加を全員で噛みしめたい。

６月２１日（金）

午前中は、明日の段取り、微調整に追われる。午後３時、外出。銀座京橋の元の職場で、明日の一泊二日バス参加者の保険加入。

６月 22 日（土）

午前７時 40 分、新宿駅西口から 21 人、レンタバスで出発。弦楽器 10 人、合唱８人、観客２人、ドライバー。ほかの移動手段で６人は、コントラバス２台運搬など、個別に現地集合。

バスの中、簡単な自己紹介などのあと、合唱隊は、これまでの指導者、大学院生佐藤さんの指揮で、アカペラで練習。ソプラノからバスまで 2~3 人ずつ。シンプルな響きで、結構ハモる。

その間、弦楽器隊は、ひたすら、ボーイング（弓使い）の書き写しや、演奏の際の目印のため、歌詞を各小節の頭に書き込んで、忙しい。

１時半、石巻市内のミニストップ駐車場で、サポーター夫妻の手配してくれた弁当を積み込む。

２時、未だ休館中、大変綺麗なサン・ファンパーク中庭で、ようやく昼食。昨年来、ずっと石巻訪問でお世話になっている「みなと荘」館長さんが、眼下の、津波でマストが折れ、修復中のサン・ファン・バウティスタ号など説明頂く。さらに、ちょうど、今から４００年前、伊達政宗の命で、支倉常長以下２００人足らず、の使節が出航した「月の浦」へ。

その後、女川の「地域医療センター」で、これまで何度も案内頂いた、３．１１で経営してい

たライブ・ハウスを流され、その後、この病院の駐車場案内をしていた岡さんに、私も初めて聞く、「３．１１の津波襲来の生々しい、細かな描写」。避難していた駐車場満杯の車が全て流された光景に、皆、息を飲む。そして、病院の玄関右柱に刻まれた「津波襲来の高さ」に、また息を飲む。海抜１６メートルの高台にありながら、さらに２メートルの被災。車椅子の施設からの避難者４人も、病院の中で、２階へ逃れられず、亡くなった。

Ｐ２３

本番会場の「石巻市総合体育館」へ。５時から、オケ自主練、６時からＧＰ。７時までの「交響楽」、は、チェロ９人のひとりとして、また、７時半から９時すぎまでは、「カンタータ石巻」合唱団バスパート７人のひとりとして、通し練習。弁当を食べる間もなく、石巻グランドホテルへ、９時半すぎのチェックイン。ほかで宿泊、または明日来る３名除く２４名全員シングル。和室で、改めて、明日の健闘祈念の乾杯、そして自己紹介。１２時すぎ、お開き。

（４）コンサート本番

２３日（日）

朝８時半、まず、弦楽隊がバスで会場入り。「交響楽」からの練習。続いて、合唱隊も、９時半会場へ。本番の服装が違う。オケは、色も自由な棒ネクタイ。一方の合唱は、黒蝶ネクタイ。女性も、パンツ可、と不可の違い。

第Ⅰ部「交響楽」

開場２０分前でほぼ１５００席満員。暑い！いよいよ、午後２時、「交響楽」本番。１５人ほど

の日本フィルのプロが入り、チェロも私の後ろに２人。心強い。
なので、弾けない箇所は「頑張らない」。全体の出来は分からないが、作曲した小杉太一郎さんの才能、委託された「ブラジル移民６０周年記念」の主旨に合う、変拍子、の難しさを体感。最初の「全体練習しなくても、出来そう」などは、大きな勘違い。ストラビンスキーを模した３楽章交響楽、素晴らしかった！

第Ⅱ部「カンタータ　大いなる故郷　石巻」

２０分休憩の間に、ネクタイだけ変え、私は合唱団へ。「カンタータ大いなる故郷石巻」は、朗読から始まる。
第１楽章「日高見」。原始から今日までの、北上川の河口に想いを寄せる。
第２楽章「たたら火」。仙台通宝鋳造の労働歌、その中での斎太郎　と妻の悲しき愛の物語。子どもたちの童歌、ソプラノ、バリトンの「夫婦」の掛け合い。良く出来ている。
第３楽章「雄図」。支倉常長のローマへの旅と、その挫折。舞台には、外国人の扮した「宣教師」らも静かに現れ、去る。まさに、「キリスト教の聖歌」調。ここで、前日見学したサン・ファン・バウティスタ号の姿が蘇る。
第４楽章「祝祭」。朗読の内容が、作詞家遺族の了解のもと、一部変更。３．１１の大震災に言及。まずは、誰もが知っている「松島のサヨ瑞巌寺ほどの寺も～」の「斎太郎節」。歌詞３番には、「石巻サヨ　その名も高い日和山～」。そして、女学校の校歌のような女声と子供の「石巻風景」。そしてフィナーレ。「愛すべき人の町～」「みんな　みんな幸せに」で詰まり始め、「大いなる故郷石巻を讃えよう」のフォルテッシモのリフレインで、完全に歌えなくなった。終わった！大拍手！あちこちから声もあがる。その瞬間、左隣のアルトの女性から握手を求められ、見ると目が真っ赤。そして左隣のバスの方も、ハンカチで目を拭っている。４０年前の１９７３年第１回から１０年ごとに歌ってきた、というベテラン、もだ。昨年３月、石巻「犠牲者追悼コンサート」での「フォーレ　レクイエム」終了後の涙ともまた違う感動だ！

４時終了。レンタカーを新宿で返すため、着替えもせず、残留組に見送られ、すぐ出発。彼らの満面の笑顔が演奏会の達成感、充実感を物語る。車の横に「トヨタレンタリース東京」の大文字で、出てきた観客からも笑顔の「さよなら」。
帰りのバスでは、全員が今回の感動的な演奏会と被災地や支倉常長の足跡に触れたツアーに大満足。コストも、往復バス乗車の大半は、交通費、ホテル宿泊、４食付きで、16000 円！で

満足。わずか１日前には初対面同士、も、あちこちで打ち解け、話も尽きない。新宿着、１０時半。解散でも互いの連絡先を教えあう。家には、１２時。帰りのチェロは泥のように重かったが、心は、羽のように軽かった。

★9月　２０１２，１３年「石巻コンサート」ＤＶＤ上映会★

会場―和光市民文化センター「サンアゼリア」　会議室Ａ・Ｂ

１３時開場、１３時半開演　入場料無料

１６日（月ー敬老の日）

台風。パソコンや携帯電話で「参加できない」「見合わせる」「電車が動いていないので、駅で立ち往生」などの連絡が相次ぐ。やむを得ない。こちらも、電車が止まる可能性もあり、１時間近く早めに出て、会場準備。オーディオ（スピーカー、アンプ、ＤＶＤ機、など）を合唱仲間の関口さんが自分のを持込、セットしてくれ、外の雨脚は激しい中、１時半開演。当初、参加者２人。

第Ⅰ部　１時３０分～

２０１２年３月２５日石巻市民交響楽団第３８回定期演奏会**「東日本大震災犠牲者追悼特別演奏会」**（石巻専修大学体育館）ＤＶＤ上映。首都圏からは、弦楽器１６名、合唱１３名、観客６名参加。石巻市民１０００人の前でのチャイコフスキー交響曲第５番，フォーレ「レクイエム」最後の「黙祷」。涙の感動が蘇る。前日夜の「凍える寒さ」での練習も思い出し、感慨。

第Ⅱ部　３時～

２０１３年6月２３日

―ソプラノとバリトンと大合唱と管弦楽と踊りのためのー**「カンタータ　大いなる故郷　石巻」**（石巻市総合体育館）ＤＶＤ上映。首都圏から弦楽器１５名、合唱１２名、観客２名参加。まず、冒頭、観客参加の方の撮影したプライベートビデオ上映。新宿駅集合から石巻や女川の被災現場を訪問、説明に見入る。そして、コンサート。本邦初演、１９５３年作曲、小杉太一郎「交響楽」。上映開始直後、第Ⅰ部、昨年３月の指揮者、佐々木さんが駆けつけてくれたので、紹介。「あの石巻大川小出身。そこはご承知のように７０余名の児童や先生が亡くなった・・・。」言っている間に、こみ上げて言葉の発声が危うかった。さて、この曲。映画「ゴジラ」のテーマ曲で有名な「伊福部昭」の愛弟子だけあって、変拍子が特徴。「交響楽」のあと、「カンタータ」。なん

といっても、舞台を背にしていて見ることの出来なかった「踊り」に注目。改めて、日舞、フラメンコ、バレエ、の宝塚バージョンのような振り付けや化粧に、観客一同、「おおおおお」。終了近く、高崎から石巻市民交響楽団のコンマス、仙台フィル長谷川さんや昨年、ヴァイオリン参加者も加わり、ようやく２桁の参加者に。 ５時ジャスト退出。和光市駅近くで、「乾杯！」。

Ⅲ　被災地体感＆コンサートツアー

―石巻「ファイン・デュオ」支援コンサート鑑賞―

１０月１９日（土）

８時、沢山の用事で無念の不参加のＫさんのお見送りを受け、バス定刻８時発進。が、事故渋滞。東北道諦め、常磐道経由、三春、川俣、飯舘村、南相馬、そして、相馬のレストランへ。

この回り道で、予定より１時間半遅れ。「水で乾杯！」。料理はあいかわらず、美味い。そして、シェフの話を聞く。「娘ー百子ーの精神的なストレスが溜まっている。子供らしい遊びも、狭い仮設での勉強も、ままならない。表情に喜怒哀楽も少なくなってきた。心配だ。国の子供への支援、なんとかしてほしい」。食べ終わって、山元町から高速。亘理周辺は、イチゴ栽培のビニールハウスがあちこち。ようやく、震災前の７割、とか。一路、石巻へ。

５時。石巻グランドホテルにチェックイン。会場設営のため、すぐに、石巻中央公民館へ。

７時開演。司会は、我々「３１１　有志」と共催の、石巻市民交響楽団、団長夫人。よどみなく、団長メッセージ伝える。私も登壇し、「手短か」な挨拶。
そして演奏開始ベートーベン「ヴァイオリンとピアノのためのソナタ　第８番」。沼田園子さんの、シルクのような、柔らかい感触の音に、観客は次第に引き込まれる。そして、各楽章ごとに拍手。吉松隆「プレイアデス舞曲集　Ⅱa 作品２８より」山田耕筰「からたちの花」貴志康一「竹取物語」、と日本の曲では、その技巧に聞き入り、見入る。　P27　マスネー「タイースの瞑想曲」、エルガー「愛の挨拶」でゆったり。最後にピアソラ「リベルタンゴ」は、ヴァイオリンの切れ味に脱帽。最後に「花は咲く」を全員で歌う。終わってからも、観客は立ち去らず。それは、それは、感動的な演奏だった。ホントの音楽、ホントの感動！「ファイン・デュオ」CD、６種類、21 枚、会場で即完売！

被災者の方、「津波で亡くなった家族の遺産相続手続きがようやく終わって、気持ちが少し落ち着き、コンサートに行く気にようやくなった。で、来てみて、本当の良かった。素晴らしい音に、涙がでた。感動しました。ありがとう。」

ホテルへ帰り、乾杯！ ピアノ蓼沼さんの挨拶「今日の演奏会は一生忘れられない、特別なものとなりました。震災直後から、音楽の無力さを感じた時期もありましたが、自分が今できることを精一杯やること、が生きる、ということなんだ、と気づきました。」皆、胸に詰まる。石巻市民交響楽団の魚屋女将、阿部さんもシャンソン、ハワイアンダンスなど披露、笑い転げる。11 時半解散。

20 日（日）

朝８時ホテル出発。昨日は、事故渋滞の遅れ１時間半のせいで、南相馬や山元町の海岸線を見ることができなかったが、今日は、「旅のしおり」で「学習」頂き、しっかり、見てもらう。

まず、石巻で、最も津波被災した南浜地区。これまで残っていた大きなビル、打ち抜かれたアパートや住宅のほぼ全ては、「解体」「撤去」され、一面の平原に。そして、女川へ。旧町立病院の駐車場から、これも、３つの横転したビルを残し、街のあったであろう平原を、呆然と眺める。「信じられない！」の声とため息。

Ｐ２８

そして雄勝通過。あの大型観光バスの乗っていた公民館始め、中学校などの建物は全て無く、ここが雄勝？その中で、少人数ながら、「秋祭り」に遭遇。道沿いの、ボランティアの作る「被災町民が集まれる場所ー花壇」だけが構築物。

今回は、献花する花束を２つ、用意した。まず、生徒、先生 74 名が死亡、または行方不明、また地域の避難所だった大川小学校。「埼玉山岳会」「三多摩労働学校」「千葉ＮＰＯ」など首都圏から大型バスが停まっている。まず、入口のこれまでの「慰霊祭壇」で献花、黙祷。見れば、津波で打ち抜かれた２階建てのモダンな建物以外は、ほぼ解体。その代わり、小さな看板が津波到達地点を示す山沿いに、大きく立派な「慰霊碑」。昼間仕事で石巻市内などへ行っていた働き盛りを除く、地区で亡くなった主に高齢者や幼児約 200 名の名前、年齢。沼田さんはじめ、目が赤い参加者たち。何度もここを訪れた私もこれまでにない悲しみが去来し、自分で戸惑った。

そして、南三陸町、防災センター。最後まで避難アナウンスを発信、３０名の町職員が亡くなった有名な建物前で献花。ここにも、バスやマイカーで次々と人が集まる。しかし、私にとっても、これが最後。これから解体されてしまう。気仙沼の大型漁船もすでに今月解体された。将来の子供たちに、この悲劇の教訓をどうやって伝えていくのか、地方自治体任せで、無策な国への怒りを改めて感じた。「思い出したくない」遺族。しかし「せめて最後の場所だけは残して」の遺族の声は届かなかった。

最後は明るい話。南三陸町「さんさん商店街」で買い物＆昼食。隣の広場で、偶然、「第４回復興グルメＦ１グランプリ」開催中。なんでも、東北の被災各地からの出店。３００円の券でどこでも１品。すでに過去３回はほかの場所で開催してきた、という。そして、会場には、や

たら若者が多いのに気づく。まず、トラック前には、高校生の「南三陸町の吹奏バンド」。そして、受付にも、青い腕章まいた学生？の女性たち。聞けば、「わたしたち、岡山の医療関係のメンバーなんです。４０人で、１４時間バスに揺られ、やっと着いたんです。」と元気。看護師さんだった。私は、和光市のつながり、３．１１忘れないコンサートで獅子舞が来た大船渡の店で、さんまのすり身のスープ頂く。そこでも、「写真撮って下さい～」。大船渡と岡山のボランティア、はい、パチリ。商店街に行けば、参加者たちは、あちこちで、「南三陸丼」

帰路。新宿駅前８時

こんなこともありました

Ｐ２９

エピソード①

参加者は、演奏者の２人を除き、全員６０代中ばから７０代初め。もう、マイペースな年代。出発時間に遅れる人、途中でトイレ停車、続出。バスが出発したのに気づき、慌てて追いかけ、駆けってくるのを、車内から歓声を上げて眺める喜び。

エピソード②

なんといっても、主役は、沼田さんと蓼沼さん。芸大附属高校から芸大首席卒業までは「友達」。その後、コンビを組んで、２０数年。互いの「男の子」も、大学４、２、１年と３兄弟のような「友達」。なので、まるで、「姉妹」のよう。女川の病院駐車場での土産購入でも、帰りのインターでの急いでののの夕食でも、二人の息はぴったり。カレーを同時に、「パクリ」。

エピソード③

（写真左は、２０１１年夏。そして２、３枚目は今回。）

女川の病院目の仮設売店に寄るたび、挨拶する。２０１１年、２０１２年と、駐車場誘導係だったご主人に、３．１１当日の津波襲来の見たまま、を何度もガイド頂いた。その頃は、震災後の５月に生まれたばかり、赤ん坊だった娘さんが、見たら、もう喋っている。はや２年７ヶ月。奥さん「子供が仕事場にいるのはよくないので、近くの保育施設に預けることが多いけど、それも、短時間だけなので、お金がかかるし、キツイけど、長く保育してくれる施設に変えようと思っているの。」。支援が必要なのは、今から、なのだ。

Ⅳ　７月　福島チェロキャラバン

９５年の大震災後、神戸復興を願って始まった、「１０００人のチェリストのコンサート」、主催団体を**「国際チェロ・アンサンブル協会」**という。これまで３回神戸で開催。ロストロポービッチ、その弟子ゲリンガスなど世界トップチェリストが指揮、指導。毎回 1000 人前後のチェリストが演奏。数千人の観客は、圧倒的なサウンドに包まれ、味わったことのない空間に酔いしれてきた。最後は 2010 年、「世界平和祈念」の広島。私も、初参加した。これまでも、新潟地震などの巨大災害後、一定人数を集めては、現地で被災者へ寄り添う「心のケア」のコンサートを行なってきた。東日本大震災後は、２０１１年秋から昨年にかけて、岩手、宮城各地で、全国から２０人前後を集めては、仮設住宅の集会所などでのチェロ・アンサンブル演奏をやってきた。今年は、福島。今回が第１回。９月第２回目が企画されている。今後、東北復興の祈りを２０１５年５月、仙台市「ゼビオアリーナ」で、第５回目「１０００人チェロ」企画中。　Ｐ３０

６日（土）

★出発★

朝８時、東京駅新丸ビル前、バスで出発。一路、福島市へ。サービスエリア、わずか１５分休憩で買った、パンが昼食。

★初練習★

昼すぎ、福島市音楽堂の練習室。この音楽堂に着くと、合唱コンサート準備中。早速、正面扉を明け、「スミマセン。どんなコンサートなんですか。」。すると、笑顔で、「どうぞ」。渡されたプログラムを見ると、県立福島高校在京（！）OB の合唱団。結成１４年、平均年齢７６歳、とある。曲目も「日本の歌、黒人霊歌、愛唱歌。全て、男声で本格的。そこに、「賛助出演」のママさんコーラスと、現役高校生合唱団。難曲揃い。さすが、合唱王国。聞きたかった～～～。

さて、練習開始。東北からの参加者数名含め、２２名のチェリストが一同に会し、全 10 曲の「初練習」。恐る恐る、リズムや強弱を確かめる。なにしろ、こちらは、低音部の第４パートなので、リズムや通奏低音。第１パートなどの主旋律があって、初めて曲の流れもつかめる。

・**合唱用６曲**―「ふるさと」「浜辺の歌」「上を向いて歩こう」「北国の春」「宇宙戦艦ヤマト」、そしてアンコール曲「見上げてごらん夜の星を」

・**アンサンブル４曲**―「セレナーデ」「アリオーソ」「チェロの為のレクイエム」「アメイジンググレイス」。ほぼ、一回通しただけで、２時すぎ、市内の仮設住宅へバスで移動。

★第１回福島市「笹谷東部仮設住宅」コンサート★

３時。第１回コンサート。ここは、浪江町からの避難者の方々の仮設。参加者は、約２０名。写

真には写っていないが、左側の、すぐ横にも、数人、入り口付近の立ち見などで会場はびっしり。テスト飛行。どこでどうするか、の手順も、ひととおり体験。福島民報新聞が取材（翌朝刊に写真入りで報道）。最初なので、まだ、いくつかで、失敗も、でも、無事１時間、あっと言う間のコンサート終了。笑顔で見送られる。

★夕食★

そして、練習会場だった「音楽堂」の隣、夜の第２回コンサート会場「古関裕而記念館」へ。まずは、ホールの椅子、机を移動、コンサート準備。５時すぎ、目の前のレストランで夕食。

★第２回福島市「古関裕而記念館ホール」コンサート★

夕食後、６時 45 分からコンサート。ここでは、地元ミニコミ紙などで知った、一般市民が観客。80 名分入場引換券ソールドアウト、の好評。ここでは、「仮設住宅」バージョンに加え、「指揮を振ってみよう」「ひとりで歌ってみよう」コーナー、小学生から年配の男性まで各３人づつ、大奮闘。大いに盛り上がり、やんやの喝采。そして、ほぼ最後に近くなって、「全国から来た」ことの紹介。九州、兵庫、大阪、京都、奈良、三重、神奈川、東京、埼玉（私）、千葉、そして岩手、秋田、宮城、福島。これにも、「へ～…」と、感嘆と激励の拍手。

【終了後のエピソード】

左端、最前列に座ったご夫婦らしき６０歳前後のカップル、終始、厳しい顔で、ニコリともせず「睨まれる」感じ。気になって、終わってから、真っ先に、「今日はお楽しみ頂けませんでしたか？」と声をかける。すると、まだ席にいた奥様、少し柔和になったお顔で、「今日は、事前の整理券もなく、迷ったけど、二人で来て、幸運にも入れました。本当に来て良かったです。私たちの子供は、耳が不自由で音楽とは遠い日々ですが、夫も久しぶりに優しい音に触れて、良かった、と言ってます。本当にありがとうございました。」と握手を求められた。話して見るもんだ。

★交流会★

８時終了。ホテルにチェックイン後、さあ、「飲み～～～」。予約なし、で 20 名以上が狭いこたつ部屋に押し込められ、「初顔合わせ同士」が多いメンバー、否応もなく、「お近づき」に。

11 時半すぎ、ホテルへ帰還。

７日（日）

★チェックアウト★

午前６時半、ホテル「東横イン」出発。一路、阿武隈山系を越え、南相馬へ。延々と細いくねくねの山道をバスが行く。結構、眼下の渓流などが美しく、また、落ちそうで怖い。

★第３回「しいな脳外科クリニック」コンサート★

内科もある病院ロビーには、すでにこの病院の患者さんら大勢が着席。８時半開始。ここにも、新聞社の取材。南相馬は、最も復旧・復興の遅れている地域。７万余の人口が、原発爆発で、１万まで減少、ようやく３万余の人が戻ったものの、生活・仕事・放射能対策などの苦悩は、毎日積み重なっている。１時間の演奏中、涙する方が多い。終わると、御礼の言葉に起立。盛大な拍手。病院スタッフ総出の見送り！

Ｐ３２

【病院スタッフ？からのブログ書き込み】

―今朝のチェロの演奏での宇宙戦艦ヤマトの合唱の時に、不覚にも涙があふれて歌えなくなってしまいました。「放射能除去装置をもらいに行くヤマトの困難な旅」と「誰かがやらねばならぬ。」と言う妙に日本人的？な自己犠牲の所が、現在の境遇にあまりに一致したところが有ったためでしょうか？ともかく、心が洗われました。本当に参加できで良かったです。たくさんの人の支えが無ければ、良い事もできません。皆さん、これからも宜しく御願いします。―

★第４回南相馬市「寺内権現沢仮設住宅」コンサート★

第４回会場に移動するバスの中で、先ほどの病院事務長さんが、「３．１１当日から一ヶ月間の病院や日常生活のドキュメント」をお話頂く。「子供が流された～」のロビーで泣き尽くす親、事務員の出勤もない中、それでも院長ひとり、患者対応し、ほぼ一ヶ月、無料診療し続けた、と。さて、仮設到着。１０時開始。狭い集会所で、参加者は入り口付近やすぐ脇に。１０人余りで少なかったが、参加者のひとうひとりと近かった分、ダイレクトに「共振」し合い、それぞれの曲への反応がじかに感じられる一時間だった。

【終了後のエピソード】

おそらく、これまでの私の経験でも３本に入る感動。入り口の離れたところにひとり座っていた年配の男性から、「オレは音楽わかんねいけんじょ、この…楽器はドレミってどうやんだい？」と聞かれる。そこで、ちょうど、楽器を持った「若いメンバー」に実演を依頼。普通に

「ド・レ・ミ」とスケールを弾き始める。すると、すぐに大粒の涙。ハンケチで何度も拭う。そして、「もう一度、ふるさと、を演奏してくれないかい。」。そこで、もらい泣きしながら、「若いメンバー」は、リクエストに応える。そして、また二人、涙。仕舞い支度のメンバーたちも、皆、それに気づいて、立ち尽くす。一同、「心の痛み、傷は深い」と改めて実感した。

★第５回南相馬市「牛河内第一仮設住宅集会所」コンサート★

１１時半、第５回会場。ここでは、津波で家を失った「鹿島地区」の住民たち、２０人余り。やはり、狭い。最後列は、ほかのメンバーの折りたたみ椅子でなく、ベンチ椅子に、参加者と隣合わせで演奏。ここでは珍しく、「男性主導」。海の男達、だから、か。

【終了後のエピソード】

やはり、ドラマは終了間際に。まず、自治会長さん、「実は、小学生の時まではチェロを習っていたんだ。でも、それ以降は、ブラバンで管楽器で、縁がなかった。」。そこで、なら、当然、弾いてみませんか？.さて、もうひとりの男性も発言を求め、「オレの友達で、猪みたいな性格の、音楽なんか関係ない奴が、携帯の待受に、さっきやったアメイジング　グレース、って奴を入れていたのを思い出し、涙が出ちまった。そいつは家族４人と津波に流されたんだ。」そして、「浜辺の歌をみんなで歌ってくれ」。別れ際も、集会所前で、自治会長からの尽きない話に、皆、聴き入っていた。

★第６回相馬市「大野台サポートセンター」コンサート★

第６回会場は、隣の市。まずはバスの中で、弁当ぱくつく。２時、開始。これまでの仮設の集会所と違い、広々。参加者が２０数名。そして我々２０人以上のメンバーでも、ゆったり、隣や前とぶつからない距離で演奏出来た。最後になって、ようやく、全曲のほぼ８割は、しっかり弾けるようになった。最後、今回の参加者全員で、「はい、チーズ！」。カこぶの白沢協会理事長ほか役員たちのおかげ。

★帰路★

３時すぎ、東北から参加のメンバー、数名と別れ、バスは一路、東京へ。

【終了後のエピソード】

バスの中では、「ソーシャルネットワーク」だか、「スマホ」だか知らんが、さっき撮った集合写真、もうブログかＨＰか、これも知らんが、早速アップ。凄い世の中だ。また、疲労が極、にも関わらず、特に「関西組（大阪、兵庫、京都、三重、奈良）」は、元気。はい、私も、当然、そして、「静かに」参加。そして、弾いていた時には歌えなかった「不満」も、全曲、東京からの男性メンバーの指揮で大コーラスで「解消」。はい、これま…た、当然、私も「静かに」参加。

★解散★

９時、東京駅解散。まず、三重のメンバー、２０分後の新幹線が「津」への最終、と慌てて降り、残ったメンバー、長時間、不案内な、仮設住宅周りもこなし、会場の片付けまで手伝ってくれた運転手さんを真ん中に、最後の集合写真。

みんなの笑顔は、今回の強行軍キャラバンの疲れも吹き飛ばした、爽快感そのもの。

★番外編★

―①古関裕而は偉大だったー

初日の夕方、館長さん（振興公社職員）に２階の展示室を案内頂く。「船頭可愛や」「露営の歌」（勝ってくるぞと勇ましく～）、「暁に祈る」（ああ、あの顔であの声で～）、から、戦後は、「君の名は」「高原列車は行く」（汽車の窓からハンケチふれば～）、「鐘のなる丘」（とんがり帽子～）、などだけではない。NHK の「昼のいこい」や「スポーツ番組冒頭のテーマ音楽、東京オリンピック・マーチ、まさにライバル同士、早慶両方の応援歌、巨人・阪神・中日の応援歌、などに加え、全国の校歌・社歌１０００曲！ちなみに福島県内の幼稚園から高校までの校歌１０２曲。当然、東北、関東でも。大学だけでも、中大・杏林・慶応・聖マリアンナ・早稲田・日大・明治・日本女子・明治薬科。余りの多さ、そして「紺碧の空～」が流れ、昔の神宮での六大学野球観戦が思い出され、昭和そのものにどっぷり浸れた、貴重な体験だった。

―②２年ぶりの再会―

古関裕而記念館近くの「トヨタディーラー」。私が１０数年前に仕事で福島全域を廻っていたときの「重要取引先」であり、また、会長夫妻は「カラオケ仲間」。当時、奥様の「ゴスペル」に男声が足りない、と誘われ、参加、テレビ出演、単独コンサートや息子さんのロックライブコンサートに行って、踊ったり。音楽の絆、そして、酒の力。コンサート前、アポ無しだったが、会長がいた。「先日、齋藤さんから電話頂き、すぐにコンサート予約しようとしたら、もう満席、でホント、残念がってたぞ。」

―③ともかく暑かったー

全国的な「猛暑日」。福島市内も、３６度、という。それに加え、重いチェロをケースごと、毎回、毎回、私はバスの最後部から狭いバスの通路を通って降ろし、また、終わって、最後部まで運ぶ「重労働」。さらにさらに、おおよその集会所も狭く、２０余人のチェロ演奏者だけで、半分以上埋まり、観客（被災者）との距離も近い。ともかく暑かった。演奏中の服装は、上が白か黒のＴシャツ、と決めれれているので、演奏が終わると、すぐに普段着に着替えて、「長持ち」させた。

―④地元、福島の女性参加者大活躍―

今回、福島市在住の参加者２人の女性が、会場手配その他、走り回っていただいた、とのこと。まず、ひとりは、東京時代のアマオケにいまだ入っている、というミヤコさん。第４パートのトップとして、６人の４パートメンバーを常にリードしてくれた。そして、バスの中で、「主人が書いた本なんですけど、お読み頂ければ幸いです。」と控えめなか細い声でお話頂き、全員にその本をプレゼント頂いたシミズさん。ご主人、とは、３０年間、原発の営業活動に関して、疑問を提起し続けてきた、という福島大財政学教授。そして、版元は、東京新聞。さすが、中日新聞と並び、「原発」への姿勢は一貫している。ありがたく読まして頂きます。

また、地元の朝刊には、参議院選挙の各党候補の政策一覧。福島では自民含め、全員「原発廃炉」「東電批判」。

―⑤９月「第２回福島キャラバン」には参加出来ず―

９月７日（土）「第２回福島キャラバン」見送り！

朝６時家を出て、東京駅丸ビル前で、7,8 日福島６箇所でのコンサートを行う「チェリスト 30 人」の東京出発組を見送り。６月第１回でご一緒した顔見知りも 10 人近く。関西から数人？大分から３人、など前泊や夜行での上京など、遠距離組多数。両日とも、下記②③など日程があり、参加できなかった。酒は持参したが、お菓子の差し入れ自宅に忘れる。これも、残念！

Ｐ３６

Ⅴ　　７月　石巻「マンドリン」コンサート

★「信州松代マンドリン合奏団」石巻コンサート★

３１１有志　古賀忠夫

中大タンゴ部後輩の友人である「信州松代マンドリン合奏団」の北村真一郎氏の依頼から始まる。当合奏団として被災地ボランティア演奏会を開催したい旨の話が私にあり、引き受けたが７/２０に長野から大型バスで石巻へタ方到着。石巻グランドホテルに宿泊、翌２１日の午前中演奏して昼食後すぐ帰るとのこと。

演奏当日は参議院議員選挙日で、心当たりの演奏会場は投票会場で使用不可だが、メンバー仕事を持っているもの多く土・日のみと変更きかない。しかも２０数名では小規模の仮設住宅集会には入れない。心当たりの大きな仮設住宅など問い合わせたが、他のイベントと重なり断られる。さあ困ったときの神頼みならず、現地で幅広い活動をしている蟻坂隆氏。自身の菩提寺である慈恩院を照会された。石巻市民オケの演奏助っ人として６／２２現地入りしたとき、慈恩院本堂を下見して広い会場に納得した。

さあ、期日前投票を済ませて７月２１日は２時 40 分自宅発。一行宿泊の石巻グランドホテ

ルに７時半到着、朝食中の北村氏と会う。演奏会場へ行くまでのわずかな時間で被災現地を見たいが、バスの運転手もガイドも何の計画なし。本当は一目瞭然の女川地域医療センターやサンファンパークなどを案内したいがままならず、「がんばっぺ石巻」の看板のあるところへ案内。犠牲者に手を合わせ、津波の高さを表示された柱を見上げ驚く。その後津波で一番高いところを走行中の車のみ助かったという日和大橋を通過して、会場に到着。

会場の慈恩院は蟻坂氏が館長の「みなと荘」のすぐそばにあり、「みなと荘」に投票に来た有権者が「信州松代マンドリン合奏団」本日演奏のポスター見ても帰ってしまう。無料の文字無いので赤字で追記する。10 時開演前の観客 10 名ほどの懸念は演奏直前には払拭され、結果的に 60 名の観客となる。蟻坂氏の幅広い人脈のおかげだ。プロの女性フルーティストをフューチャーして、唱歌や東北関連の曲など熱演。知っている曲は観衆が口ずさんで盛り上がった。休憩時には団員と交流でき、わずかな時間ではあったが意義あるボランティア演奏できたと、81 歳の指揮者が最後に感謝の言葉。続いて住職の櫻井法昭氏が、本堂の梁に貼った津波到達点を指しながら、震災後数百名のボランティアが復興に携わってくれ感謝している旨話された。最後に蟻坂氏が軽妙な笑いで締めくくった。私も住職に礼を言った際、６／２３の石巻市民オケの演奏会で、「カンタータ大いなる故郷石巻」の合唱で参加していたと話され、私がヴィオラで参加していたこと知っていた。お坊さんで声量も豊か、ベース担当に納得した。

昼食は石巻復興マルシェで予約した海鮮丼にありついた後、パネルの展示で震災前と後の写真説明、帰る途中のドライブインでお土産買うという声に、現地でお金落とすことも復興支援になると話し、海産物のお土産を求めて小さなお店は大混乱。有志を近くの石ノ森萬画館や流されなかった聖ハリスト教会に案内。１時半長野に向けバスに乗車した合奏団一行を見送り、役目を果たして１人となった。　以　上

Ｐ３７

Ⅵ　３月　「和光３．１１　忘れないコンサート」

①2013 年イベント

２月 13 日（水）

午前は、和光市役所会議室で、振興公社主催「３．１１忘れない実行委員会」。色々私にも振られ、発言した。そして、おおよそのイベント内容が確定。私に振られた役割は、「プログラムへの掲載記事」（これは、２週間前に完了）「コンサートホールでの寫眞展示」（今後、私がサンプ

ル作り、作成）など。ただ、まだ、合唱団の参加数が６０名程度、で少なく、男性はテナー８名、バス７名、とか。フインランディア、モーツアルトはまだしも、ヘンデル「ハレルヤ」はやばい。

《練習》

２月２４日（日）１３時～１６時　サンアゼリア企画展示室
３月　２日（土）１３時～１６時　和光市役所６０２会議室
３月　７日（木）　１９時～２１時　サンアゼリア大ホール
３月　８日（金）　１９時～２１時　サンアゼリア大ホール
３月　９日（土）　ゲネプロ　本番前１５時３０分～（予定）

３月１日（金）

１０時より、和光市「３．１１忘れない実行委員会」。
３日間それぞれのチケット販売状況ー１２００の座席に対し、まだ４割～６割。追い込み必要など。次回は、「反省会」。３月 21 日。

実行委員会終了後、取材に来て、会議にも出席した NHK 埼玉の女性キャスター藤田さんが当日のテレビカメラを入れるための会場下見に付き合わされる。特に「さくらの木に義援金募金した観客のメッセージが書かれた花びらが貼られる」募金の原画が、サンアゼリアの緞帳。見事な西陣織。その前で、キャスター、ポーズをとってくれた。花に花、か。

３月２日（土）

朝から忙しく、明日の会議資料作成などして、昼過ぎに和光市役所での３月９日合唱練習へ初参加。心配された要員不足も、行ってみれば、ソプラノ、アルトは各２０人、テナー、バスは６，７人と、最低限、なんとかなりそう。指揮者が面白く、抱腹絶倒。でも、とんでもなくソプラノからバスまで歌える、凄い奴。４０歳過ぎとは思えぬ、エネルギーと分かりやすい教え方。感銘を受けつつも、３時半で早退。フィンランディア、また、歌い損なった。

３月５日（火）

午後からは、また和光市民ホール、サンアゼリアの写真掲示が一部出来たので、見て欲しい、と言われ、現場へ。ホール正面には、「募金の花びら３０００枚で埋め尽くされる」はずのさくらの木が、ど～ん、と設置されていた。まだ、一部、作業は残るが、ほぼ私は完了。でも、その後、「３．１１実行委員会」の幹部３人から、３日間の観客動員がまだまだ、で、特に９日午後の「郷土芸能」、１１日のプロアーティスト競演、が、１２００席の会場が空き席だらけ、の状況。

９日（土）～１１日（月）本番

「その日を私たちは忘れない　元気にみんなつながろう　ｉｎ　和光　チャリティコンサート」。会場の和光市民文化センター「サンアゼリア」の、滅多に見ない「桜の緞帳」の前で、午後１時、開会アナウンス。地元「和光・朝霞・志木・新座」の民俗芸能が続く。和太鼓やお囃子。地元の人もまず見たことがないのも無理無い。通常、お祝いごとなどで呼ばれて演じるので、このような大ホールの観客を前に、有料で、しかも一同に会することが初めて。

そして、最大の出し物が、和光市と提携関係にある大船渡市の小さな 200 人ほどの集落に長く伝わる「小通鹿踊り」。前日午後８時半に出発、長距離をバスで移動、という強行軍ながら、鹿の扮装で太鼓を打ち鳴らしながらの「ダンス」は、エイリアンの舞、のようで、勇壮かつ幻想的。終わってから、会場入口で観客に大モテ、だった。（右の写真は前日のオケ・合唱の練習風景）

そして、午後７時から、和光スペシャル邦楽合奏団、慶應義塾志木高等学校ワグネル・ソサィエティー男声合唱団、朝霞児童合唱団、そして、私が合唱で参加する和光スペシャルオーケストラ／和光スペシャル合唱団。フィンランディア、モーツアルト「レクイエム」の中の２曲、アヴェ・ヴェルム・コルプス、最後が、ヘンデル「ハレルヤ」。短期間での集中練習はキツかったが、本番が一番良かった、と怖い指揮者から言われた。

翌日１０日（日）は、仲道郁代と川井郁子のデュオ・コンサート。

最後の３日目、１１日（月）は、マリンバや尺八、ピアノ、声楽など、本コンサートの主旨に賛同した、多才なプロの競演。

「桜募金」は目標５０万をオーバー。さらに１１日当日、２時４６分すぎから１時間、和光市駅前で募金して１０万、集めた、という。社協の「大船渡」「亘理」物産品も、もうほとんど在庫なしの盛況。やったね！３日間のコンサートでの出演者、裏方スタッフ、ボランティアなどは３００人になるという。みんなの成果！会場では、実行委員会で知り合った様々なキャリアの方々に混じって、裏方の若い振興公社職員たちが走り回っていた。

３月２１日（木）

午前１０時から、「和光市３．１１忘れないコンサート」実行委員会。中間総括、だ。具体化してからの準備期間が短く、なにより市、振興公社、市民各種団体・ボランティアの混然一体の実行委員会は初めての経験。特に動員面や作業面での反省点は沢山あったが、なにより、主旨の「被災者支援」については、「やって良かった」。招待した被災者の方々や、一般の観客、さらに演奏者やそのスタッフなどが一様に、「大変良い取り組みで満足」「もっとほかの市でもやると良い」など肯定的。終わってから、ハイポーズ！

②2014 年３月イベント準備

５月１７日（金）

和光市「３．１１忘れない実行委員会」に提出・説明する「企画書」は、完成。今回の作業で、和光市のホームページに馴染んだ。我が朝霞市の半分の人口。でも、理化学研究所やホンダ本社もある。文化創造戦略に本企画が寄与できれば、の提案。被災者・被災地も、和光市や近隣市区も、ウインウインのムーブメントが息長く続けば、本望だが、さて？

５月２１日（火）

実行委員会の主要メンバー数人と、企画書の内容について、問題や漏れ、誤りがないか、下打ち合わせ。

５月２２日（水）

今日は、「和光市３．１１忘れないコンサート」実行委員会最終回。今後の方向を決める。まず、昼前に行って、「和光市振興公社」で、２０頁の企画書資などをプリント。

さて、議事開始。３月に集めた募金の大船渡への寄贈の報告、などに続き、２時すぎから私の出番。資料は、まずは配布せず、大きな前方のスクリーンに映した「パワーポイント」で説明。１時間半質疑。これにて、「実行委員会解散」。

５月２７日（月）

「和光市市民文化センター　サンアゼリア」会議室へ。今後の被災者支援プロジェクト始動、の前の下打ち合わせ。参加者は、６人。５時から今年秋や、来年３月イベントの取り組み、それとは別に「いつでも、どこでも、誰でも」出来る支援について話し合う。１時間で終了。

６月５日（水）

午後３時半、第１回和光市「復興支援事業」企画委員会。来年の３月１５（土）サンアゼリア大ホールは商工会主催の復興ミュージカル，小ホールは社協主催の被災地からの報告やボランティアの集い、１６日（日）にアマ・プロの音楽イベントを企画、さらに今年秋からの和光市のキャラ「わこうっち」の有効活用での物産販売や募金の検討、など。これら個別の実行委員会を横断的に「和光市支援」として一元的なチラシやＰＲが望ましい、ということに。　午後５時半、と時間も良い。急遽、和光市の居酒屋で、昨年からの「３．１１忘れない実行委員会」でのコアなメンバーで、初の「飲み」。各人の本音が聴けた。

６月６日（水）

ミュージカル★～東北のプレタポルテ～「ドリーム工場」★

作・演出：石塚克彦　劇団：新生ふるきゃら　　Ｐ４１

２０１４年３月１５日（土）に和光市「サンアゼリア」で公演が予定されているミュージカル「東北のプレタポルテ　ドリーム工場」。昨日の会議でチケットを頂き、「見学」。日本青年館大ホール。入場料４０００円の会場は、６割程度の入り。内容は、津波被害にあった岩手の縫製工場が舞台。２時間半近く、１８人の俳優と、３人のバンド、が歌、踊…り、セリフ、をリズミカルにこなす。で、ストーリーや感想はここでは、触れない。

６月１２日（水）

午前１１時、和光市駅前「ロイヤルホスト」で、６月５日に論議した、来年３月の「和光市復興支援事業」企画、とりわけ、来年３月１６日（日）のイベントをめぐり、６人で論議。内容

は、曖昧模糊、としてはいるが、多くの市民参加型で、かつ支援の志あるプロ・アーティストなどでの高い質コラボした企画が出来ないか、ハードルは色々。採算は、旗振りと事務局は？などなど。

６月２６日（水）

「２０１４年3月忘れないコンサート」企画委員会。3月１５日は、商工会の実行委員会で、ミュージカル「ドリーム工場」準備開始、との報告。次に１６日（日）。伝統芸能、２つのついても、参加可能、の話。そして、こちらから具体的提案。

第Ⅰ部、和光市民合唱団主体、２００人規模の曲。

第Ⅱ部は、本人が「支援目的に賛同し、ノーギャラ」了承した、プロのソロヴ…ァイオリニスト3名、ヴィオリスト１名に、チェリストなど賛同者を加え、ソロ、またはアンサンブル。

第Ⅲ部は「和光市民オケ」主体にフルオケ。フィナーレはベト９第４楽章を市民４００人規模。

合唱団、オケとも、それぞれの役員会に図り、本日の内容で、協力できる曲目などを選定、と前向きな受け止め。１５，１６日を統一した「和光市の支援事業」として相呼応してＰＲなどをしてゆくこと、そして私の提案骨子は、おおよそ了承される。

ただ、事務局を市民活動支援課や振興公社では担えないことが最大のネック

７月３日（水）

午前中、「和光市３．１１忘れない」企画会議。いつもの６人。「駅前ロイヤルホスト」。３ページの前回まとめ、提案、それに新聞記事コピーを配布。書記が「いない」のだ.

今回は、前回の論議内容を踏まえ、より具体的に、市民合唱団、市民オケ双方にとって、「組織ぐるみ参加」のため、各役員会に持ち帰れる内容を詰めた。さらに、「実行委員会と事務局機能の立ち上げ」「９月から半年間の募金活動でのプレ活動」「来年３月１６日コンサートのフィナーレ」までのタイムスケジュールや、「当面の活動資金や最終の収支」など意見交換。

７月１８日（木）

①午前１１時～　「和光市３．１１忘れない」企画委員会。「和光市伝統芸能２つ」「和光市民オケ」「和光市民合唱団」「慶応志木ワグネル男声合唱団」「新座少年少女合唱団」などの参加内定。時間配分から、ノーギャラ申し出のプロのコーナーは割愛せざるをえないか、オケも合唱も広く参加呼びかけ、なかにし礼訳「第９合唱」を、観客も一緒に歌うことが出来ないか、要検討に。

（以降、毎月２回程度の「企画委員会」が開催。今年より、実行委員会。大詰めに。）